白井市総合教育会議録

○会議日程

令和８年１０月７日（水）

白井市役所東庁舎３階会議室３０２・３０３

１．開会

２．市長挨拶

３．議題　白井市第３次教育大綱に基づく取り組みの進捗状況について

４．閉会

○出席委員等

市　長	笠井　喜久雄
教育長	井上　功
教育委員	齊藤　豊
教育委員	中里　敏康
教育委員	松田　加奈子
教育委員	久保　利枝

○出席職員

教育部長	齊藤　祐二
教育部参事	山本　高寿
教育部参事	村田　安彦
企画政策課長	竹内　　崇
教育総務課長	落合　一矢
生涯学習課長	奥村　敏直
文化センター長	髙花　宏行
企画政策課	飯田　健司
書　記	中村　妃佐
書　記	大坪　照平

午後２時３０分　開　会

○事務局　それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和８年度第１回白井市総合教育会議を開催いたします。

本日、議事進行を務めさせていただきます企画政策課の飯田と申します。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題や、あるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として、市長が設置するものです。

それでは初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○笠井市長　皆さん、こんにちは。第１回の総合教育会議に出席をしていただきまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

まず初めに、台風２５号の被害状況と対応状況について、お話をさせていただきたいと思います。台風２５号は、御承知のとおり、この千葉県内でもいろいろな被害が起きています。白井市におきましては、今分かる時点では、床上浸水が５件、床下浸水が１５件、道路損壊が３件、崖崩れが４件と倒木が１件ございました。

今回の被害状況を見ますと、昔からの旧地区、農村地域の被害が大きかったように思います。千葉豪雨については、どちらかというと集中豪雨でしたので、工業団地とかニュータウンの中にも冨士地区に被害がありましたが、今回は、千葉豪雨からずっと長雨で、そして、農地に水が浸透しなかったことが影響していて、例えば神々廻地区、十余一地区、根地区においては、孤立した住宅が３か所存在しました。そして、この対応について、２４時間体制で排水作業、消防団も含め職員と、あとは、国や友好都市の福島県の伊達市とも行っていたのですが、今週に入ってから孤立した住宅については、何とか終わりました。これからは、農地が大分水に浸かっている所がありますので、この辺の対応を今、進めているところです。

その関係から、梨マラソン、ふるさとまつりについては、中止をさせていただきました。非常に残念ですが、まずは長雨対策を職員一丸となってやって、そして、その後に、また新しいイベントについては進めて考えていきたいと思っています。まずは今、被害に遭った方、そして復興を目指して、職員一丸となって取り組んでいるところであります。

教育委員の皆さんもいろいろ心配したと思います。いろいろな地区に行って、いろいろな話があると思いますが、今そういう状況で再建に向けて進めるところであります。そういう中で、第１回総合教育会議を進めさせていただきます。

お手元に資料があると思うのですが、今日の話は、白井市の第３次教育大綱に基づく取り組み状況について説明をするものであります。

第３次教育大綱というのは、令和８年、今年から始まった大綱になります。今日のお話の内容ですが、まずは第３次教育大綱のポイント、おさらいになりますけれども、もう一度説明をさせていただきます。

そして、二つ目には、第３次教育大綱の考えに基づく取り組みの紹介ということで、今こういう事業を令和８年度から行っていることの報告になります。

最後に、今後の取り組み展開ということで、今後、令和９年度以降、このような事業を考えていると、その上で皆さんから忌憚のない御意見、そしてアドバイス、助言を頂きたいと思います。

早速、おさらいになりますけれども、策定の趣旨、計画期間になります。

白井市第３次教育大綱については、策定の趣旨は、ここに掲載がありますが、平成２７年４月１日施行の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に基づきまして、市長と教育委員会が協議・調整を尽くして、市長が白井市の教育振興に関する基本的な方針を定めることになっています。

対象期間が、白井市第６次総合計画、前期基本計画に併せまして、令和８年４月１日から令和１３年３月までの５年間としているところであります。

大綱の基本理念になります。皆さんは、恐らく大綱を何度も説明したので知っていると思いますが、

もう一度、初めての方もいると思いますので説明させていただきますと、基本理念は「”オール白井”で高める『しろいの教育』関わるみんなも白井の仲間」ということで、あらゆる人が白井の教育に携わるということを基本理念に掲げています。

具体的に言いますと、教育関係ですから、当然教育委員会、市、幼稚園、保育園、今回コミュニティ・スクールとしての小中学校、高校、大学、専門学校、トータルで教育に関わる全ての機関、家庭や地域、企業・民間ということで、あらゆる活動分野が教育に関わって、そして、みんなで子どもたちや大人や障がい者を支え合うという、このような基本理念を掲げているところであります。

具体的に基本方針は何かといいますと、大きく三つございます。

まず、方針１、持続可能な「社会の創り手」を育てます。ということで、将来の予想が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の担い手となるため、主体性・想像力・課題解決能力・表現力・リーダーシップ・チームワークなどの力を備えた「持続可能な社会を維持・発展させていく人材」を育てますということです。そういう人材をこの地域、この国に輩出するように育てていきますということになります。

方針２、市民の「生涯の学び」を応援します。ということで、安全安心な学びの場をみんなで共有しながら、生涯にわたり誰もが健康で心豊かな生活を送るため、文化、スポーツに親しみ、生きがいを感じながら人生１００年時代を歩むことができる「生涯学べる環境づくり」を応援しますということになります。

人生１００年時代と言われていまして、今、男性の平均年齢が８１歳を超えました。女性が８７歳を超えています。これは５０年以上、年々上がっている状況にあります。実際に日本の国に１００歳を迎えている方が、この間の報道によりますと、１０万７，０００人を超えているという状況です。白井市におきましても、１００歳を超えている方が３５人、そのうち男性が４人、女性が３１人。国でも１０万人超えていますけれども、女性の割合が８８パーセント、男性の割合が、その残りですね。白井市も同じような状況にあります。ですから、人生１００年、楽しく自分の人生を全うするためには、いろいろな学びや健康づくり、そういうことが重要ですよということになります。

方針３、教育を「みんなで支え合う仕組み」を進めます。これは、家庭・地域・学校・行政・大学・民間事業者などと連携することで、教育ＤＸの推進や多様な学ぶ機会の提供、家庭における教育の向上支援など、様々な課題を共有して解決する、「みんなで支え合う仕組み」を進めますということで、一番初めに基本理念で説明しましたが、いろいろな人が子どもたちの教育や、そして大人の健康づくりに関わる、そういう環境をつくっていくのが基本方針３になります。

具体的な事例を紹介します。

まずは、先ほどの基本理念にありましたが、いろいろな関係者、例えば学校関係者、民間のいろいろな関係者、大学の関係者、教育機関、いろいろな関係者と、まずは包括連携協定を結んでいることについて説明をさせていただきます。

教育もまちづくりも地域づくりもそうですが、やはり一部の機関だけが関わっているわけではないと思っています。あらゆる関係者が、教育やまちづくり、地域づくりに関わっていて、そして、いろいろな役割を担いながら、そして充実した教育環境をつくっていく、また、まちづくりを進めていく、このことが私は一番重要であると思っています。

そういう関係から、ここに、包括連携協定を結んだ会社を少し載せてありますが、全部で２４企業

さんと包括連携協定を結びました。就任してから７年間で、２４の企業と包括連携協定を結んでいます。

教育関係によく関係するのは大学関係ですね。ここにあるのは、麗澤大学、明海大学、そのほかにも順天堂大学、東京都市大学、こことも包括連携協定を結んでいます。それぞれの大学の強みを生かした教育部門、健康づくり部門で、包括連携協定を結んでいるところであります。

今年に入ってから、新たに二つの企業と包括連携協定を結びました。ここにありますが、ＮＴＴグループ４社及び北総ライノスというプロバスケットチーム、こことも包括連携協定を結んでいます。

具体的に紹介します。ＮＴＴグループ４社との包括連携協定、これは令和８年４月１７日に締結をしています。４社の名前は、ＮＴＴグローバルデータセンター・ジャパン株式会社、ＮＴＴ東日本株式会社千葉事業部、ＮＴＴアーバンソリューションズ株式会社、株式会社ＮＴＴアグリテクノロジーということで、この４社と包括連携を結びました。

主な連携事項は全部で７つあります。

まずは１つ目が、子育て世帯へのサービスに関すること。２つ目に、スマート農業等、農業の生産に関すること。３つ目に、ＩＣＴ教育をはじめとする子どもの教育に関すること。４つ目に、地域の安全安心、災害対策に関すること。５つ目に、健康・福祉の増進に関すること。６つ目に、地域社会との共生に関すること。最後、７つ目に、新たな交通システムに関することということです。このイメージというのは、これから自動運転というのが始まってくると思います。運転士不足が叫ばれていますので、自動運転に行くために、どのようなシステムが必要かどうかの包括連携協定も結んでいます。

そして、ＮＴＴ東日本株式会社千葉事業部との役割ですが、小中学校へのＩＣＴ教育や防災・文化分野でのデジタル活用等を通した白井市の学びと安全なまちづくりの支援ということで、デジタルが防災には私は役立つと思います。今回のいろいろな報道を見ますと、よく道路のところに水がたまるアンダーパス。アンダーパスが事前にある程度察知できて、自動的に閉まるような仕組みが今あるかどうか。ですから、この危険な箇所をデジタルを活用しながら事前に予知をして、察知をして、それを住民の皆さんにお知らせするような仕組みというのも、防災にこれからは必要ではないかと思います。

今回の千葉豪雨や台風２５号というのは、今まで経験したことのなかった、想像がつかなかったことが起きました。これをＡＩや、そういうデジタルを活用しながら事前に察知をして、市民の皆さんに少しでも備えていただく。場合によっては、危険をお知らせして、家にいていただくか、避難所に避難をしてもらう、こういう仕組みが必要と思っています。

これがＮＴＴ東日本の行っている事業です。体験型防災事業ということで、白井第二小で行った授業ですね。実際にＡＲ技術を用いて浸水災害を想定した体験をやりました。でも今回、何か所も、実際に体験しなくてもありました。先ほど言いました孤立した住宅については、１メートルぐらいまで水が浸かって、なかなか家から出られなかった事例があります。ほかにも各地域で水に浸かって、なかなか人が、車が通れなかったことがあります。

あと、火災による煙幕下の想定をした避難を体験できる減災迷路。これは実際にイメージをして、画像で見ないと何度も体験できませんので、こういうデジタルを使った体験というのも、今後必要になってくると思うし、これが普及すると思います。

もう一つ、令和８年度にあった北総ライノスとの包括連携協定になります。３人制のバスケットチームですね。これは、令和８年６月４日に協定を結んでいます。目的は、豊かな社会生活を実現するため、人材育成とスポーツ振興及び健康増進等、相互に協力し、地域社会の発展と市民サービスの向上を目的としています。

具体的な項目ですが、教育、人材育成、スポーツ振興、健康増進、地域活性化の推進に関すること、情報発信や広報に関することを掲げています。プロバスケットチームが、なぜ健康づくりやまちづくりに関係するかというと、彼らが持っているいろいろなノウハウを子どもたちに提供したり、また、大人には健康づくりとして役立てていただきたいと思っているところであります。

代表の廣島さんが言った言葉なのですが、「私たちができることを最大限に生かし、特に子どもたちに対して、バスケットボールを通じた教育という観点から貢献していきたいと考えております。」ということで、バスケットを通して子どもたちの健全育成に寄与しようということです。

バスケットだけではありません。柏レイソルとも包括連携協定を結んでいますし、あとはラグビーのJR東日本グリーンウォーリアーズ東葛ですかね、ラグビーチームとも包括連携を結んで、それぞれのスポーツを通じながら、子どもたちの健全育成に寄与していきたいということで結んでいるところであります。

これは、実際、北総ライノスさんが、白井総合公園バスケットゴールの新設の記念イベントの様子です。バスケットゴールを設置して、子どもたち、スポーツ少年団たちをお招きして、実際の講習会を行いました。

ただ、残念なことに、下が砂で、周りを囲っていないので、やっぱりいろいろな要望が出ました。これだとボールが弾まない、あとはボールが外に行ってしまう、危ないということで。そして、そういう意見がありましたので、実は今回直します。床をラバーに変えて、そしてネットを張ります。子どもたちが使っていて、そういう意見が多かったので、追加で工事をお願いしまして、それを進めていく予定です。そこで、北総ライノスさんがお金を寄附してくれると。少しでも貢献したいということで、そんなに大きなプロスポーツ会社じゃないのですけれども、一部経費に使ってほしいということで話が来ています。ですから、こうやって包括連携を結ぶことによって、技術の指導はもとより、環境づくりにまでも応援していただくと。非常にありがたい事例だと思っております。

もう一つは、毎年やっていますスクールサミット事業です。夏休みの時間を使って、ウェルビーイングというテーマで、子どもたちが学校や地域やまちのことを考えて、いろいろな提案をしていただく。非常にすばらしい事業だと思っています。毎年８月に参加をさせてもらうのですが、子どもたちのまちに対する考え方や、子どもたちなりに、まちにどういうような課題があって、どうすればいいかということが非常に分かりやすく、また、パワーポイント、資料の作り方も非常によくできています。当然、現状をいろいろ調べながら、そして現状に合った課題を整理して、政策を提案していただく、政策レベルも向上している。

私は、この事業を通して、子どもたちがこのまちにもっと愛着を持っていろいろなことを知ることによって、最終的には、このまちの定住につながっていく、そういうふうに長い目でこの事業を見ています。まず、自分の住んでいる場所や、そして地域、まちをまずは自分たちの目線で調査をして、何が必要で、何がいいか、それを理解した上で、このまちをもっとよくしたい。それが協働意識にもつながるし、最終的には、定着人口の促進にもつながるというふうに思います。

スクールサミット、感想を少し紹介しますと、小学生の感想は、「これからどのようなことをすれば、よりよい白井になっていくかが分かり、できることを実行していきたいと思いました。」「他の学校の発表を聞いて、白井の現状がよく分かり、改善点から自分たちにできることを考えたり学んだりすることができました。」ということで、やっぱり他校の取り組みを見ることによって、自分たちの考えが分かるということも一つの利点であると思います。

また、中学生の感想を見ますと、白井市のみならず、私たちの周りの現状や課題を深く考えるきっかけとなりました。私たちが次の世代を担う立場として、少子化や環境問題、自然災害に目を向け、状況を改善していかなければならないと感じました。スクールサミットに参加したことで、自分自身の成長につながった。」という感じで、非常にいい、普段では味わえない、自分たちで考えて、そして調べて、それが、どうすればいいかということの一つのきっかけになってくれればと思っています。また、この中で、子どもたちの中でいい政策があれば、事業化につなげていきたいというふうに考えているところであります。これについては、そういう部署に提案があっていいものは取り組むということは指示をしているところであります。

あともう一つ、今年やった事業で、多分、教育委員の皆さん、来たと思うのですけれども、子どもおしごとフェスタ、これは教育委員会の生涯学習課主催の事業で、事業目的は、働くことの意義や大切さを学ぶ。そして、体験を通じて社会の仕組みを理解する。地元企業・団体と子どもをつなぐ機会をつくる。地域への愛着と将来の職業観を育むということで、これは、第６次総合計画の重点事業に位置づけをしているところであります。

今回初めて行ったのですが、８月２９日土曜日、市役所１階を中心に開催をしました。対象が市内の小学生。前はフリーだったのですけれども、今回は募集、申込制にしました。ですから、ある一定の数が確保できたことと、混雑を避けることができたという成果につながったということです。

参加児童数が１８９名。参加企業・団体数が１８社。協力企業が６社。参加者総数が５９７名になります。

これは、その様子ですね。

これが参加企業・団体の紹介です。白井市役所から始まって野水鋼業、工業団地にありますけれども、そういうところが参加をしています。公的機関は、白井市役所や消防署、そして自衛隊ですね。あとは、民間でいうと、ＮＴＴ、銀行、工業団地内の企業になります。これ、ずっとブースを見たのですけれども、一番人気がなかったのは市役所でしたね。ショックだったですけれども。みんな見たいのは、消防士の服を着たり、警察の服を着たり、自衛隊の服を着させてもらって、実際にそれを着て味わうのがいいですね。市役所は、結構いろいろな説明をしたから、なかなか難しかったのかなと思います。こういうことがありました。これは実際の風景ですね。それぞれのブースでいろいろなことをやって。

参加者の割合が、ここにありますが、１８９人の割合ですけれども、１年生が２９パーセント、２年生が２２パーセント、３年生が１７パーセント、４年生１４パーセント、５年生１３パーセント、６年生５パーセントということで、どちらかというと、１、２年生が中心だったのかなと感じています。小さいときから、いろいろな仕事に携わる、また、白井で事業をやっている企業さんと親しくなる、そのことが地産地消ですよね。地元の子が地元で働く、こういう関係が長い目で築ければいいなと思っております。

これは、９年度以降に向けて生涯学習課がこういうことを検討していることで、１回目を受けて、こういう改善点を今進めていきたいということです。

成果については、市役所が会場で、受付・動線が一元化できたことによって、ある程度好評だったと。１か所に集中して分かりやすかったということですかね。二つ目が、完全予約制にしたことで混雑がなかったということです。自分の行きたいところにスムーズに行けたという、そういう成果があった。

一方で、課題もあったということですね。一つは、こども銀行とこどもショップで場所が混雑していたということ。二つ目が、企業ブースで参加者ゼロの時間帯があったということです。参加する企業にとってみれば、いっぱい来てほしいのですけれども、そういう時間帯があったということを反省点で挙げています。三つ目が、協力企業ブース、無料で遊べるブースが手狭だったということですね。

こういう課題を受けまして、次年度に向けて何を考えていくかというと、まだ予算、これから審議ですから、担当課としては、こういう思いがあるということです。令和９年度も夏休み期間に実施を予定したいという、これは当然やりたいと。募集する際の仕事内容を明確にする。保健福祉センター１階も使用できるように、健康課と調整するということで。保健福祉センターも役所も全部使用して、いろいろな企業に参加してもらって、一日遊べるような、体験できるような、そういうように拡充を図ってみたいということです。

あともう一つ、地域の人材・企業等を活用した体験・交流活動事業ということで、これはどこでやったのですかね、白井中学校で、慶應義塾大学スタートアップ企業「Classroom　Adventure」CMOの竹ノ内さんをお招きしまして、闇バイト、レイの失踪、トライアル授業を開催したということで、これ闇バイトのいろいろな体験、実践ですよね。それを経験したそうです。

今、本当に若い人が、短期間にこれは稼げるということで、闇バイトに応募をして、抜けられなくなって、いろいろな事件、事故を起こしていますよね。そのことを実際子どもたちに話をした内容、そういうふうに聞いています。レイの失踪は、闇バイトの模擬体験ということでプログラムをやって、実際いろいろやってしまったということですね。これについても、担当課は、令和９年度以降も、市内中学校で導入をしてみたいという。今の子どもたちに、今、何が起きているのか、それを実際体験してみて、そして、将来そういうものに参加をしない、手を染めないという、こういうことを今からやっていきたいということですね。これは補助金がつくそうで、地方消費者行政強化交付金、補助率２分の１、これがあるので、なるべくこれを使って、広くやりたいということです。

これが授業風景ですね。ゲーム形式。今は、一方的な講義だと、みんな飽きちゃいますものね。ゲーム形式を使って、実際に自分がそこにはまったり、自分がそこに体験しないと分からない部分があって、これをゲーム形式だったり、画面で見せているそうです。

児童生徒の感想の一部に、「実際に体験としてできないものが、このようなゲームになり学べたため私たちのこれからに役立ちすごいと思いました。」という体験することで、いろいろなことを学んだということですね。

あと、警察に電話をかけるときには、普通の１１０番ではなくて、＃９１１０にかけるということは分かりますよね。自分はまだ一回も電話していないから分からないですけれども、違うのだね、ということです。子どもたちに実際に１１０番じゃないよと。＃９１１０に電話をすることが分かったそうです。

ですから、こういうような時の今、子どもたちが巻き込まれているような事件、事故についても、こういうものをいろいろな講師を呼びながら進めていきたいということです。

こちらも教育委員会、生涯学習課の提案、考えで、一つは、ハッピーライフLabo事業、３回連続講座。人生１００年時代を「自分らしく」暮らすための連続講座を企画したいということです。基本方針に人生１００年がありましたよね、キーワード。それを実現するために、こういう講座をやってみたいということです。三つのステップで構成されているということ。まず１回目は、私らしく生きる。２回目は、私らしく終える。中間がないのですけれども、そういう講座。最後は、自分らしくつながるということで。これをトータルして、つながるということのイメージなのかな。こういう講座をもって、人生１００年を楽しく自分らしく生きてほしいというようなヒントのきっかけの行動をやってみたいということで提案がありました。

もう一つあります。これです。特別講座「キャリアデザイン」。これも教育委員会、生涯学習課からの提案事業です。具体的に何かといいますと、３回講座とは別枠の特別講座として、夜間に実施する。これは、どちらかというと大人とか転職や、あとは女性、考えている人たちをターゲットにした事業で、具体的に言いますと、いろいろな転職、いろいろな職にチャレンジをして、場合によっては自分で起業をする。このような目的で、社会参加へのきっかけをつくってほしいのかな、そういう事業を企画していると。実際には、夜間の就労世帯が参加しやすい設定にして、市役所でやりたいという内容になっています。

最後におさらいですが、基本方針の大綱に基づいて、基本方針１、２、３を実現するために、いろいろな組み合わせ事業を考えているところ、また、やっているところであります。これについても、くどいようですが、やはり行政、教育委員会だけではできない事業です。民間企業や大学、専門機関とタイアップしながら、それぞれの強みを生かして、総合的に事業展開をしていきたいという内容になっています。

そこで今回、いろいろな今の進捗状況、事業の説明と取り組みについて、お話をさせていただきました。その上で皆さん、この３つの基本方針を達成するために、どういうような事業を進めればいいのか、また、先ほど提案した事業として今やっている事業についての助言、アドバイスがあれば、忌憚のない御意見等を頂きたいと思います。それぞれの教育委員さんの視点がありますよね。働いている女性として、そして男性だったり、保護者だったり、いろいろな視点から、こういう事業を、今やっている事業にこういうふうにプラスすれば、もっとよくなりますよと。または、これを達成するためには、こういう視点と、こういう観点での取り組みというのも大事ですと。そういうものを忌憚のない御意見等を聞かせていただきたいと思っています。

○笠井市長　令和９年度以降、考えている事業もあるのですけれども、それも含めて、漠然としていますが、よかった事業、今、提案をした内容の中で、この事業は面白いよね。または、この事業についてこれを加えると、こういう企業さんとか、こういう人たちを加えると、もっとよくなるよねということがあれば、率直な意見を聞かせていただきたいのです。そこで何かアイデアのヒントになれば、そこを検討して、もっと充実した事業で展開を進めたいし、拡充をしていきたいと思います。

まず、松田委員。

○松田委員　ありがとうございます。

私は、保護者の視点からですけれども、この中に紹介があった子どもおしごとフェスタは、とても

いい取り組みだなと思いました。今年は参加できなかったのですけれども、以前ワーキング・キッズ・アドベンチャーだった頃には、一度行ったことがあって、そのときよりも、場所がまず市役所になって広くなって、参加する企業・団体も増えたということで、とてもすばらしい取り組みだなと思いました。小学生のうちから地元の企業とか地域の企業の様々な職業を体験できるというのは、とてもいい体験、経験だと思います。なので、ぜひ続けていきたい、続けていっていただきたい。市役所のお仕事がもっと魅力的になるように。

このイベント、やるだけではなく、その先、中学校のキャリア教育とか、そういうところにもつながる取り組みになればいいなと感じました。

○笠井市長　ありがとうございます。

今の助言は非常にありがたくて、市内にどういう仕事があるか、どういう人たちが働いているかをまず知ってもらって、そして、自分の仕事の選択になればいいし、そして、できれば地元で働いて、地元に住んでもらう、そこに最終的なゴールを持ってきて、いろいろなことにつながっていく。単発で終わりではなく、それぞれのターゲットをつなげていくような仕組みというのも大事だと思いますので、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

今度は、齊藤委員。

○齊藤委員　説明ありがとうございました。

私は、白井市のこの取り組みですかね、１０年、２０年前から見ていると大分変わってきて、本当に第一線で活躍している企業とタイアップしてやっていくというのは、すごくいいなと思いました。

特に気になったところは、地域の人材、企業等を活用した体験・交流活動事業ということで、慶應義塾大学スタートアップ企業CMOの竹ノ内氏を招いて開催した、闇バイトの疑似体験ですね。内容を聞いていて、この辺がちょっと気になり、実は私も参加したいなという、聞きたいなと思いました。中学生なんかで、まだバイトはちょっと早いのかなとは思うのですけれども、後で高校生になったりして、必ずバイトをやりますので。今、皆さんが聞いている闇バイトというのは、いつの間にか入っちゃって、悪気があったり、犯罪をしようと思ってやっているわけじゃなくて、つい入って、簡単だから入って、結局、最終的に受け子だとか、かけ子だとかというので捕まってしまうというのが闇バイトなのですけれども。抜けきれない。

私がもう一つ、これにプラスして、もしできるのであれば、闇バイトもそうなのですけれども、薬物ですね。今、大麻とかが若い間ですごくはやっていまして、多分、小学生ぐらいからやっているのかなと思います。

なぜ大麻が手に入るかというと、簡単に入るし、単価が安いのですね。覚醒剤だと、１回分が大体４万とか５万円なのですけれども、大麻の場合は、何千円単位で手に入ってしまいますので。そういうところからやっていくと、小遣い程度で、小学校、中学校ぐらいから、やっていく子が増えていく、今後も増えてくるのだろうなと思っているので、できれば、そういうのも取り入れていただければと思います。

あと、松田委員からあった、子どもおしごとフェスタもすごくいい企画で、私も何回か見させてもらっています。子どもたちって、企業、就職とかそうなのですけれども、どんな仕事があるか分からないのですよね。希望を持って、もう頭に自分で将来の映像がある子はいいのですけれども、私みたいに何やっていいか分からないというのは、会社に行って初めて自分の会社で育ててもらったという

のがいるので、どんな仕事が世の中にあるかというのが分からない子どもたちが多いと思うのですよね。そうすると、子どもおしごとフェスタというのは、すごく参考になるのかなと思います。なので、そこで自分の道筋ができてくる子どもたちになっていくのかなと思って、これもすごく興味があります。

あとは、北総ライノスのバスケット。これも、すごくいいなと思いました。

先ほど市長の説明にありました、下が砂地だとか囲いがないという。本来であれば、アリーナみたいなのができれば一番いいのかなと思うのですけれども、予算の関係もあるし、また箱物というものがあると、将来的なものもあるので大変かなと思うのですけれども、できるところから、こういうのもやっていただければと思います。

いろいろ言いましたけれども、ありがとうございました。

○笠井市長　ありがとうございます。

確かに薬物は、今日の新聞か昨日、新聞で見たのですけれども、増えているのですよね。１０倍ぐらい増えているということで。入手の方法が簡単だから、若い人でも手をつけやすいということなので、今後やっぱりそういう事業の中に、闇バイトもそうだけれども、薬物の危険度とか入手、要するに、だまされて購入する場合もあるので、そこも一つのヒントになると思います。

あと、室内競技施設だよね。これは、あったらよかったことなので、今後、いろいろな税収が確保できて、いろいろな事業者と組み合わせができれば、そういうような夢というのも実現できるかなと思っています。まずは今できることから、少しずつ子どもたちの意見を取り入れながら、そして実現できるものは、実現をさせていきたいと思っています。ありがとうございます。

中里委員。

○中里委員　説明ありがとうございました。

私が気になった点、一つ目が、包括連携をしている企業２４。これ何の企業だろうと事前にいろいろ調べさせてもらったのですが、基本理念の中での教育に携わる機関として考えると、ちょっと足りないというか、偏っているかなというイメージがあるので、言葉で言うのは難しいのですけれども、例えば健康面とかメンタル面とか、あとは、学校教育であっても、今、塾とか英会話スクールとか、学校以外でもそういうところに行かなきゃいけないという環境もあるので、そういうところも取り入れて、全体でよくなればいいのかなと思いました。

それと二つ目が、例えば今、白井市の人口で、中学３年生までの児童生徒が約１０パーセント、高齢者が白井市の中で約３０パーセントがいると思うのですけれども、その中で、例えば文化センター、総合公園、市役所等でみんなを集客して行う行事、こういうときに、幼児もしくは小学校３年生ぐらいまでの自分の足だけでは行くのが困難、あとは、子どもがその行事が、イベントがいいと言っても、親の興味関心がなければ、行こうともしない。逆に高齢者３０パーセントも、このうちの、例えば高齢者クラブ、それなりに活動ができる高齢者というのが約６パーセント、１，０００人ぐらいしかいないのです。そうすると、この３０パーセントの後の１万５，０００人、６，０００人という人は、文化ホールに行きたくても行けないという交通手段の不便さがあるので、こういう大々的に集客して行っているイベント自体を小学校区でも各公民館でもいいので、今までは来ても集めるだけだったのですけれども、こちらから出向いて、規模は小さくなってしまいますけれども、そういう手法を取り入れてもいいのかなと思いました。

それと、三つ目が、どうしても白井市の伝統というものが、学校教育の中だけでは知り得ない、理解しづらいという部分があると思うので、例えば歴史でいえば、牧とか、行事では辻切り、オビシャ。料理も、梨の粕みそ焼きとか、白井にあるそういう伝統的なものをもっと取り入れて、周知できるイベントも考えてもらえればと思いました。

四つ目が、ＣＭ、宣伝が白井市は得意ではないので、実際私も一応気にしてはいるのですけれども、前回行われた文化センターを舞台にしたなぞときゲームとか、そういうの全然知らなかったのです。今回いろいろ調べて、やっと分かったというぐらいで。なので、どうしても広告料というのが一番金額が張るものなのですけれども、自然とみんなが目について、耳に入ってくるような広報の仕方を考えていただければと思いました。

以上です。

○笠井市長　四つほどありましたけれども、まず、包括連携協定は、自分の中では拡充をしていきたいと思っています。包括連携協定を結ぶに当たって、行政ですから、ルールがないといけないですよね。だから、方針、指針をつくっています。企業から、こういうようなうちは強みがあるから、市と一緒になってやってみたいというのは、それは市民にとってメリットがあって、市にとってメリットがあって、その会社にとってメリットがあれば、そのルールの中で包括連携協定を拡充していきたいと思っています。いろいろな企業さんの持っているノウハウや、場合によっては、資金を活用して住民にサービスを提供する関係をつくっていきたいなと思っています。

二つ目は、うちの行政面積は３５．４８キロ平方メートル。印西は、うちの４倍の面積を持っています。うちの３５．４８キロというのは、千葉県内では非常に小さいまちになります。その中でも、交通の格差というのがありますよね。ニュータウンエリアでも、バスが通っているところと通っていないところ、旧地区でもバスがないとかあるので。ですから、イベントをやるときには、大きなイベントは中央に集約する。あとは、地域ごとに、それぞれの特色を生かしたイベントも重要だと思っています。加えて言うと、居場所も必要ですよね。そのために今やっているのが、一つは、まちづくり協議会。これは小学校区単位でそういう場を提供して、地域のお祭りやイベント、そして地域課題を自ら取り組む関係を今つくっています。今５つ目ができています。

あとは、総合型地域型スポーツクラブだよね。これは県内でも、全部の中学校区にあるのは、うちしかないのですよね。加えて、障がい者のスポーツクラブを持っているのですね。ですから、行きたくても、遠いから行けないところについては、そういうような協議会や地域型スポーツクラブを紹介する、または、各地域によっては高齢者のサロンがありますから、そういうものも併せて進めていく。だけれども、大きく白井市民以外でも集まってほしいのは、中央でイベントをやる。ですから、そういうふうに区分けをしながら、いろいろな市民の人たちが選択できるようなメニューを提供していきたいと思っています。

三つ目の伝統です。委員おっしゃるとおりで、第二小のまちづくり協議会を見てみると、ばらっぱまんじゅうというのをやっています。ですから、地域によっては、昔から神楽とか食文化とか、そういうものを生かしたいろいろな催し物をやっているので、それもやっぱり応援していきたいと思っています。伝統というのは、継続してこその世界ですので、そういうような大事なものは、継承する人を育成しながら繋げていきたいと思います。また、そういう繋げていく場を、そういう協議会やいろいろな場で提供してほしいと思っています。

最後、ＰＲについては、御指摘のとおりで、よく皆さんに言われます。今回、市から発信するだけじゃなくて、市民がそういうプラットフォームを使って発信できるところの企業と、この間、連携協定を結びました。行政の発信はどうしても堅い。企業が運営している、そういうところに市民の皆さんが情報を、例えば今度幼稚園のイベントがあるから、そこに出せば、そこに入るような仕組みをつくっています。やっぱり情報は、行政だけじゃなくて、住民が持っている情報も発信することによって、それが白井市の知名度を上げる効果がある、そういうことも今進めています。

以上です。貴重な御意見ありがとうございました。

最後に久保委員。

○久保委員　お願いします。教育委員をしていながら知らなかったこともあり、自分のアンテナが低いなと反省したところもありましたが、いろいろな企画をしていただいていることで、子どもたちがとっても幸せですし、ありがたいことだなと思います。

自分が唯一参加できていたものがスクールサミットだったのですけれども、毎年、子どもたちの発表を見させてもらっていて、やっぱりこれはずっと続けていくことでレベルが上がっていくし、意識も変わってくるというか。最初は、みんな似たような発表だったのかなと、何年か前は。それが地域だとか、自分たちの学校の行事なんかに合わせてレベルアップしているのは、毎年見ているのですけれども、面白いなと思いました。

今年、麗澤大学の学生さんの発表が、残念ながらなくなってしまったのですが、もし来年度できて、レベルの高い発表が見られれば、それがさらにレベルアップにつながっていくので、ぜひやっていただきたいなと思います。

ここからは理想の話ですけれども、見ていて、中学生ですごく発表が上手な子がいるなと。この子は、もしかしたら小学校のときも上手だったあの子じゃないかしらと思ったら、やっぱりそうだったりですとか。自分の理想としては、スクールサミットを経験した子が、大学生になったときに呼ばれて、模範の授業をプレゼンをしてくれるような感じで来てくれたらいいなと思います。

そのためには、高校生、大学生は、どうしても中学校のときと違うので、市とのつながりが薄くなるというか、どうしても市からの情報も受け取りにくくなるし、参加できるものも少なくなってきているような気がするので、参加できる機会があればいいなと思いました。例えば市のイベントで中高生に、もしかしたら邪魔になっちゃうかもしれないけれども、運営側として働いてもらうとか、そういうことを続けていけば、自分たちの企画することの楽しさを知る子どもたちも増えていきますし、そういう子たちが白井にずっと残ってくれたら盛り上がっていくのかなと思いました。

それとも関係するのですけれども、子どもおしごとフェスタも何年も続いていくといいなと思ったのですが、参加者が５年生、６年生になると、ちょっと減っていく。その意識としては、多分５年生、６年生になると、ちょっと恥ずかしいのかなと、参加する側だと。それだったら、企業側にお手伝いとして入れてもらうとか、中学生でも、お手伝いとして参加できるよという形で仕事をもらえれば、立場を変えてイベントに参加できるという経験ができるので、そういう経験も増えていけばいいなと思いました。

○笠井市長　ありがとうございます。

非常に参考になる視点で、運営側に子どもたちが関わっていくというのは大事なことですよね。自分たちでつくって、自分たちでやったという達成感、それがいいのかなと思いますので、それはぜひ

今後考えていきたいなと思っています。

６回聞いていますと、初めは、１回目の頃はよく市に対して、公園を造ってほしいとか、カラオケボックスが欲しいとか、いろいろな欲しいがありましたけれども、ここに来て、欲しいだけじゃなくて、自分たちはこれができるから、これをしていきたいと。それから、こういうものがあればいいなということに変わってきましたよね。自分ごととして、このまちに何が貢献できるか、何ができるかというような提案に変わってきたなというふうに実感をしています。非常にいいことだと思います。

自分の中でスクールサミットを通じて、まちに対する愛着心とか、あと、誇りを高めていただきたい。そして、最終的には、このまちに住んでもらうことが一番いいのでしょうけれども、やっぱりあの発表を通して、将来は学校の先生になってみたいだとか、あとは政治家になってみたいとか秘書になってみたいだとか、そういう子たちができればいいなと思うのです。これをやるためには、どうしたらいいかということで、そういうような手段ということも考えてもいいのかなと思っています。

自分の中でまちづくりは、この３５．４８キロ平方メートルの中に遊ぶ場があったり、学ぶ場があったり、食べる場があったり、いろいろなものが循環するような環境づくりがいいのではないかなと。要するに、このまちで人生が全うできる、生まれて育って、そして、このまちで働いて、そして亡くなるのも、このまちで終わる。こういうようなまちが理想じゃないかなというふうに思っているのですよ。そのための循環、食べるものとか、遊ぶもの、そして働く場、そして、いろいろな場があると、この町である程度人生の目的が達成できるようになれば、非常に理想的なまちではないかなと思っています。

そのためには、いろいろな各分野の人たちと連携、協働しながら進めていく環境づくりが一番いいのだろうなと考えているところです。まだまだ本当に足らない部分はあるのですけれども、そういうような意見、そういうような思いを皆さんで共有しながら進めていくことが、このまちの価値、教育のレベルの向上につながっていくと思っているのですよね。ですから、こういうようないろいろな話合いは気づきもあるし、そういうことなのだなということも分かるので、非常に勉強になると思うし、楽しみにしています。ありがとうございます。

時間があるので、職員にも伺います。

髙花文化センター長、この教育大綱について、自分はこういうことを思っているのですと、何かあれば。せっかく意見交換の場でもあるし、市長と教育委員だけではなくて、自分たち職員として、こういうようなことをすれば、教育大綱の目的達成できるということがあれば、自分の視点で。

○髙花文化センター長　はい。どうしても今、文化センターという私、施設にいるので、各教育委員会とか事務局というのは、市全体を見ながら、こうだというのがあるのですけれども、どうしても文化センターという施設の中で行事が完結していることが多いので、職員一同が、もう少し広い目を持って、いろいろな行事をやっていきたい。

あとは、どうしても出先というか、少し離れているので、内部的な話ですけれども、本庁の職員といろいろ情報交換をして、いろいろな課題を見つけてやってほしいと思っています。どうしても、いる中で同じ事業をずっと続けていくというのは、将来的なものがないので、いろいろな話合いをしたり意見交換しながら、施設というのは、もうできてしまっていますので、その中でしかありませんけれども、いろいろな新しいチャレンジをこのような会議の結果も踏まえながら、やっていけたらいいなと思っております。

○笠井市長　ありがとうございます。いい視点だよね。自分たちは、それぞれの部署もあるけれども、やっぱり市民全てに関わっているのだよね。生まれてから亡くなるまで市民生活に関わっているので、ですから、みんな繋がっていないと本当はいけないのだよね、ぶつ切りではなくて。まずは、そのためには情報共有して、どの部署で何をやっていて、どうなのかということを知ることから始まるのだよね。非常にいいと思います。ありがとうございます。
○笠井市長　村田教育部参事。
○村田教育部参事　私は、スクールサミットについては、非常にいい、ほかもそうなのですけれども、特にスクールサミットについては、すごくいい事業かなと考えています。こういう子どもたちが発表できる場、本当にすばらしいホールで発表できるなんていうのは、なかなかないことなので、それができる、そういう舞台を踏めるというのは、すごく子どもたちにとっていい経験なのかなと思います。
　ほかの市町でも、こういうのをやっていないところで、うまく自分たちでしっかりと考えて、そして、こういう形にして発表して、そして、いろいろな取り組みがそれまでにできるということは、とてもいいことですし、子どもたちも、学校にいると、こういうことを発表したいというふうに小学生でも考えることができるので、そういう先の見通しを持って、ふだんから生活できることは、本当にいいウェルビーイングにつながっていくのかなと思っていますので、これはぜひ継続していきたいと思っております。
○笠井市長　ありがとうございます。そうだよね。今、情報がいっぱいあって、スマートフォンで全部調べられる。だけれども、大事なことは自分の目で、耳で正しい情報を理解するということですよね。だから、ああいう同じような世代の人たちがいろいろな発表することによって、違った角度で情報を得るので。ただ画面を見て、スマホを見てじゃなくて、生の声でやるということは、非常に大事だと思っています。継続する必要があると思っています。ありがとうございます。
○笠井市長　山本教育部参事。
○山本教育部参事　ありがとうございます。
　一番印象に残ったのは、子どもたちを運営側にという話です。私も学校の職員の立場で話をさせてもらうと、どうしても、いろいろなものを子どもたちに与えようとか、準備してあげようとすることが多くなります。そうすると、子どもたちは、与えられたものに反応するということが多くなってしまいます。要するに考えなくなってしまいます。ですが、もっともっと子どもたちに任せてやらせてあげると、我々大人には気づかない、出てこない発想が出てきます。また、災害対応なんかもそうなのですけれども、想定を上回る事態が起きるわけですから、子どもたちに考える力をつけさせる必要があるわけです。ですから、もっともっと子どもたちを主役にするようなイベント、行事、催し物があるといいと思いますし、そのようにしていきたいなと感じました。
　以上です。
○笠井市長　ありがとうございます。まさしく主体性は子どもたちに持たせるべきと思います。昔、山本さんも、自分もそうですけれども、野球やっていた頃は、監督が一から十まで指導するわけですよね。今の時代は主体性だものね。自分で考えて、自分の欠点をどうやって直せばいいか。アドバイスはするけれども、教えてやらないものね。そういうチームが今、甲子園に行ったりして、また、プロに行って活躍しているのだよね。考える力がない選手というのは、どうしても壁にぶつかるのじゃないかと思う。だから、これからは、本当に子どもたちの可能性を信じて、主体性というものをどう

やって引き出すか、そういうのは環境づくり、教育を進めていくべきだと思います。ありがとうございます。
○笠井市長　竹内課長、お願いします。
○竹内企画政策課長　いろいろな御意見どうもありがとうございました。
　私は、連携協定とか、今回のスクールサミットもそうですけれども、行政の中で考えるだけではなくて、いろいろな方とのつながりによって、協力してもらって事業が成り立つものであったりとか、いろいろな新しい発見が出てくる、そういった部分をどんどん相乗効果として高めていけると非常にいいかなという考え方を持ちながら、連携協定等も進めていきたいと考えています。
　あと、先ほどお話の中で、中学生を手伝い側に入れてはどうか、先ほど山本教育部参事もお話しされていた部分で、過去のことを思い出したのが、過去に二十歳のお祭りを成人式、今、梨光式のときにやっていた、二十歳の子たちが自分たちで盛り上げたいと言って、成人式の後夜祭みたいな形でイベントをやって、自分たちでイベントをつくって盛り上がって、それがすごくいいものだったのを思い出して、確かに自分たちの自主性だとか、そういったことは教育の中でも大事だよなと。それが、白井市で育った子たちは、そういうことができるというのは、すごくいいなと改めて思い出しました。
　以上です。
○笠井市長　ありがとうございます。主体性と、その主体性を大人が実現させて、可能性を引き出すということだよね。大事だと思っています。
　次は、生涯学習課の立場として奥村課長。
○奥村生涯学習課長　生涯学習課からは、子どもおしごとフェスタ、レイの失踪、ハッピーライフLabo事業のことを説明いただきましたが、特に、子どもおしごとフェスタについては、本当にたくさんの方が参加していただいて、子どもも保護者の方も非常に喜んでくださって、すごくいい事業だったと思っております。また、市役所で今年からやるようになりましたので、もっといろいろな地区から子どもたちが集まってくれればいいなと思っております。もっと広げてやっていきたいと思います。
○笠井市長　対象は、白井の子どもだけですか。
○奥村生涯学習課長　今は白井の子だけです。
○笠井市長　これから人の確保というのだったら、白井市内だけではなくて、もう少し視野を広げて紹介するというのも、仕事の働く場の確保という面ではいいよね。分かりました。
　次に落合課長。
○落合教育総務課長　私ども直接的に教育現場でというところはないのですけれども、教育委員会の全体的な下支え的なものと考えています。基本方針の中に、社会の創り手を育てていくというところもございますので、育てていく小中学校の児童生徒たちが使う校舎と、そういったところの教育の場の環境の向上、こういったところは進めていかないといけないところだと思っております。
　さらに、そういった事業を進める中で、包括連携等していますので、企業さんたち、使えるところは使っていきたいと、活用していきたいと、そういったところも進めていきたいと思っているところでございます。ありがとうございます。
○笠井市長　ありがとうございます。
　落合課長は、学校の大規模改修や、無理難題を言って、来年２月までにエアコンの整備を、いろいろ本当に環境づくりをやってもらっています。そういう面で、これからも学校の働く場の環境づくり

と子どもたちの環境づくりをやってくれれば、いい子どもたちがどんどん育つし、またこの町に住むと思うので、よろしくお願いしたいと思います。

では齊藤部長お願いします。

○齊藤教育部長　今日は、本当にありがとうございます。市長の説明と、それから教育委員の皆さんから、本当に自分ではなかなか感じられないようなところもお話をいただきましたので、今後に生かしていければと思っております。

特に今日の説明だと、生涯学習に関する事業が比較的多かったかなと思っておりますので、こういった事業というのは、多分今までの市教育委員会ではなかなか取り組めなかったようなことが、ここ数年で劇的に取り組みの方向、考え方とかも変わってきております。それは、市でも職員採用とかで、社会人の経験の方を入れたり、中途採用の方を入れたりして、いろいろな考えとか、やり方とかが融合されてきて、どんどん前向きな、発展的な事業が今、取り組まれてきていることをすごく感じております。

今回のスクールサミットで、麗澤大学とのコラボも企画政策課でいろいろ調整をしていただいたりして、小中学校の発表だけじゃなくて、大学生の発表というようなところまで行っておりますので、外部人材も含めていろいろな、包括連携協定もそうですけれども、市内市外含めて、いろいろな方からの意見を聞いて、協力をしていただきながら、白井市の教育が、教育といっても学校だけではなくて、本当に幅広いところになりますので、そういったところでいろいろな事業を通じて、教育委員会の役割を果たしていければなと思っております。

特にレイの失踪という話が出ましたけれども、今回、慶應大学の方の協力ということですが、これもここに限るわけではなくて、いろいろなところが今後こういった似たような事業が出てくると思います。それこそ薬物であるとか、そういったものの取り組みも含めて、いろいろな手段を考えながら、固定的な考えではなくて、積極的にこういったものを取り入れて、もちろん学校の協力もあってですがやっていければいいなと思っております。

以上です。

○笠井市長　いろいろと広範囲にいろいろな御意見を頂きました。やっぱりいろいろな人の知恵を出しながら、子どもたち、そして子どもたち以外の人たちに、何が一番いい提供ができるかだよね。行政はいろいろな部署があるけれども、市民にとってみれば同じなのだよね。教育委員会だろうが、福祉だろうが、環境だろうが。ですから、そこは、あくまでも住民にとって何が一番いいのか、子どもにとって何が一番いいかを常に考えていただければいいと思います。ありがとうございます。

井上教育長、お願いします。

○井上教育長　ありがとうございました。

方針３にある、みんなで支え合う仕組みということで、今回は市長さんに包括連携、官民連携の部分を御説明していただいたのですけれども、教育に関することだけでもこんなにあるので、多分ほかにも、もっとたくさん連携しているのではないかなと思います。連携したことによって、今説明があったように、全てステージアップしたなというか、今までにない視点がたくさん入ってきて、今お話がたくさん出たのですけれども、大事なことだなと感じています。

先ほど齊藤教育部長からもありましたけれども、これを支えているのは企画政策課なので、企画政策課がいろいろなところにきっと足を運んで、いろんなところを探しているのかなと思うのです。

私は前から思っていたのですけれども、企画政策課との連携・協力が必要かなと。行政は、どちらかというとお金が大変なので、財政との連携傾向が強いように思うのだけれども、特に教育はいろいろなものを開発して、開拓していかないといけないので、それをやるのは企画政策課なので、企画政策課と連携を図り、もっとこんなところを呼んできてとか、もっとこんなことをやりたいのですけれどもというのをどんどん提案してくることが必要かなと思っています。よろしくお願します。

以上です。

○笠井市長　ありがとうございます。教育長が言ったように、企画政策課が全体をマネジメントして、どう教育に反映するのか、市民の健康と生きがいづくりに反映するかというのは大事なことですね。お金は税金以外、クラウドファンディングもあるだろうし、場合によっては、民間のお金を活用してフィールドを提供して、民間のお金でやっていただいて、その成果をまた民間に返すという、こういう仕組みもあるよね。ですから、うまくいろいろな資金、お金も含めて、人材も含めて活用して、掘り起こしをしてくれればいいなと思います。ありがとうございます。

ほか何か、せっかくなので。

○井上教育長　一つ言い忘れていたのですけれども、さっきＰＲという話が出たのですけれども、僕は車でｂａｙｆｍをよく聞いているのですけれども、印西市の文化センターが結構イベントを紹介しているがお金かかっているのかなと。

○髙花文化センター長　かかっていると思います。

○井上教育長　結構かかるのかな。ただ、聞いていると印西市だけで、ほかの市町村はあまり。やれないのか、やっていないのか分からないですけれども。

○髙花文化センター長　聞いてみましょうか。

○井上教育長　インパクトが強いなと思って、ラジオで流れると。費用対効果なので、インパクトが強ければ、高くても元は取れるかもしれない。

○笠井市長　ちょっと聞いてみて。

ほかにも何か皆さんありますか。せっかくの機会、これを話しておきたいとかありますか。いいですよ。大丈夫ですか。

最後になりますけれども、子どもたちの教育というよりも、確かに教育レベルが上がれば一番いいことですよね。だけれども、自分で思うのは、子どもたちの人生が豊かになって、楽しい人生だったなという、そういうような環境づくりも、人としては大事だと思っているのですよね。教育でいろいろなことを学んで、それが自分の人生観に生きればいいのですけれども、勉強したことだけが教育じゃないのですよね。いろいろなことを経験、体験して、それが子どもたちの人生の糧になると思うのですよね。ですから、そういう広い視点でいろいろな議論をしてほしいなという。教育レベルを上げることだけではなくて、もっと子どもたちが楽しく、人生をどうやって豊かに生きられるか、そういうような視点で、教育委員会として幅広い御意見を頂きたいなと思います。

子どもたちだけじゃないよね。教育長もそうだけれども、そこで働く学校の先生方も、この白井市で働いてよかったなと、そういうようなことの提案をお願いしたいと思います。自分たちもそうですけれども、住民サービスを担っているのは職員ですよね。子どもたちに教育をするのは先生ですよね。だから、先生にとっても、いいような環境づくりの教育委員会としての議論を引き続きお願いします。

以上です。

よろしくお願いします。

○事務局　それでは、以上で本日の意見交換会を終了いたします。

それでは、以上をもちまして令和８年度第１回総合教育会議を終了します。

本日はお疲れさまでした。皆さん、ありがとうございました。

○事務局　ありがとうございました。

午後３時４４分閉会